

72年前の ex J4EA の交友から先達の活躍をしのぶ [第13回]  
オールドタイマーが遺した一冊のアルバム

by Editor Shinzaburo Kawai, JA1FUY

▼J3DP 橋詰与惣次郎さんのシャック



(神戸市上沢通)

▼J3EH 大塚良雄さんのシャック



(神戸市] 林田区)

## 昭和 11 年（1936 年）はどんな時代か？

### 風にそよぐ電波

#### ■電波オリンピック

「がんばれ、前畑リード、あと 2 メートル、あっ、前畑リード、勝った、前畑勝った、前畑の優勝です」

昭和 11 年 8 月 11 日午後 11 時半すぎ、ベルリンから送られた第 11 回オリンピック、河西アナウンサーの実況中継は文字通り日本中の血をわかせた。女子 200 メートル平泳ぎ決勝戦で、ドイツのゲネンゲル選手と接戦の様相である。

その 10 日前に開かれた NOC 会議、次期開催国に日本も名乗りを上げていた。「東京 36 票、ヘルシンキ 27 票」、表決で東京開催が決まった。国内のオリンピック熱はいやがうえにも盛り上がった。日本勢はよく戦った。7 日の 3 段飛び、10 日のマラソンで優勝、11 日からの水泳では、お家芸を発揮して次々に日章旗をあげた。時差の関係で実況放送は日本の深夜となったが、国内の熱狂は「前畑優勝」で頂点に達した。

声だけでない。ベルリンオリンピックでは、世界で初めて新聞写真を無線で電送するという快挙をやったのけた。表彰台上に上がった日本選手の晴れがましい姿が連日の新聞を飾った。はじめ「1 日に約 2 枚」の予定で、会期 16 日間に 30 枚の写真を送ることにしていた。

ところが空中状態がよく、鮮明な受信画像が得られるため、予定枚数を越え総計 52 枚を送受信し、各紙の朝刊に掲載された。なかには新聞 1 ページに 1 枚をクローズアップした紙面もあらわれたほどだ。

この無線伝送のかげの主役が日本電気の柳瀬久二郎技師。彼は J2GW のコールサインを持つハムでもあった。オリンピックの前後に技術的打ち合わせでドイツを訪問、DASD（ドイツ・アマチュア無線連盟）と交歓した。DASD ではちょうど創立 10 周年にあたっていた。しかも次期オリンピックの開催国が日本ということもあって、日本のハムに好意的だった。

「電送テストのひまなとき、ちょこちょこ訪問したのですが、みんな歓待してくれましたね」



香山 晃著 電波実験社（昭和 51 年初版）\*

彼らから DASD がオリンピック記念コンテストを企画していることを知った。東京オリンピックのときには、さらに構想を広げ「電波オリンピックにしよう」との提案もうけた。のちにこの話を聞いた笠原功一さんは、JARL NEWS でこう提言している。

《ドイツのハムに負けないよう、私たちも東京オリンピックでは、無線を活用して、100 万人の大合唱をやろうではないか。方法としては神宮競技場に 10 万人のコーラスを揃え、この歌声をハムの電波で遠くアジア各地のハムに伝える。上海やマニラでも合唱団を待機していて電波に合わせて歌う。その声をまた東京にフィードバックすれば、100 万人の大合唱も夢ではない。アジアではじめてのオリンピックを、ハムのかでみんなでたたえることができるのだ》

東京五輪は戦火で開催が見送られ、電波オリンピックの夢も実らなかった。

（「ハム半世紀」香山晃著 p.81～83 電波実験社より抜粋） 絶版

### ■「ハム半世紀」著者略歴

香山 晃 本名：梶本倪良（かじもと・ちから） 昭和 2 年大分県に生まれる 31 年読売新聞大阪本社に入社 大分支局、報道部を経て西部本社連絡部勤務 32 年 JA6UU 開局 元 JARL 通信運用委員

## JARL NEWS 1938 年 FEBRUARY 第 73 号より

### アマチュア報国

- J2KT 芳野 季文 -

関東支部幹事 J2KS 栗山晴二君、(1938 年) 7 月 2 日召集令が下りました。翌 3 日午後 7 時からレインボーグリルで JARL 関東支部送別会を開催し、参会者各自国旗に署名して贈り激励いたしました。

私はこの日、都合が悪く時間に間に合わず会合に出席することができないのが残念でしたが、閉会后忙しい時間を割いていただいて渋谷で J2KG と一緒にビールを飲んで話し合うことができました。

5 日いよいよアンテナに別れる日、在郷軍人やその他数百名の歓送裡に午後 5 時熊野神社に参拝し、正に永年住み慣れた自由が丘の地とも別れを告げ、最近完成した FB な二組のアンテナに尽きない名残を惜しみながら夕方品川のご両親の許に落ち付き一夜をここで過ごしたのでした。

明くれば6日、空は快く晴れ渡り申し分の  
ない入営日和です。8時すぎ家を出て隊に着  
きましたら、もうすでに営門前庭は一ぱいの  
見送り人です。しばらくして昨日と同じ悠々  
とした彼を見出し一入の懐かしさでした。

間もなくMHもやってきました。やがて定刻  
場内の拡声器が働き始めて、入隊の注意で  
す。万歳の声に送られて少しく紅潮した  
J2KSを最後まで見送ってしまってから  
J2MHと別れの挨拶を交わして帰ったのは  
10時40分頃でした。



栗山君は日ごろ国策  
青年と自ら号してい  
ましたが、このたび  
宿望が達せられ一意  
専心奉公の赤心に燃  
えて奉公袋にアマチ  
ュア免状を収容して無線をやるんだと張り切  
って入隊いたしました。

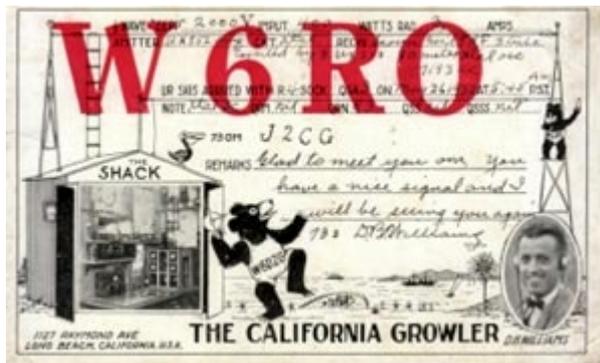
(編注：現代仮名遣いに変更しました)



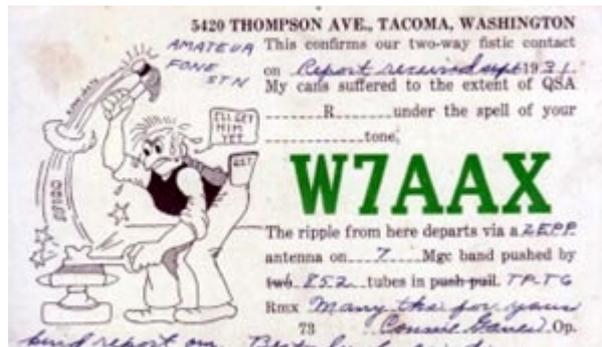
「アマチュア報国 J2KS 栗山君を送る」(右下)  
の記事が掲載された JARL NEWS  
1938年9月号 第78号\*

## ▼J2CG 林太郎 ミュージアム (4)

1931-1979 に活躍された J2CG 故林太郎さんの遺品の一部を YAHOO オークションで落札された岩  
岡氏 (JG1AKM)のご好意により「QRA BOOK」「QSL カード」「戦前の JARL NEWS」など  
貴重な資料を QTC-Japan.com に寄贈いただきましたので、その中から珍しいカードを順次ご紹介し  
て参ります。



W6RO 1932年



W7AAX 1931年

[参考文献]

「アマチュア無線のあゆみ（日本アマチュア無線連盟 50 年史）」 日本アマチュア無線連盟 50 年史  
編集委員会編

「日本アマチュア無線外史」 JA1CA 岡本次雄、JA1AR 木賀忠雄 共著 電波実験社

「ハム半世紀」 香山晃著 電波実験社

「JARLNEWS 1937 年 10 月号」第 66 号 J2CG 林太郎氏の遺品から (JG1AKM 岩岡氏提供)

編注：故人を付すること並びにコールサインに EX をつけることを省略しています。

de JA1FUY